

〈論文〉

漢字の音読みの習得に及ぼす母語の影響

—中国人日本語学習者の場合—

胡 曉 睿

キーワード：漢字の音読み，中国語の影響，音韻の類似，形声文字，意味の関連

0. はじめに

日本語と中国語の両言語において，形態的には8割以上は同形語である⁽¹⁾。両言語の意味が同じ漢語も約半数を占める⁽²⁾。中国人学習者は，他国の学習者と比べ，日本語の漢字や漢語を見て意味を理解することにおける負担が軽い。

しかし，中国人学習者にとって，漢字の音読みはむずかしい。鈴木（1987）によると，中国語の一字一音に対して，日本語の漢字は一字多音という特徴が，中国人学習者にむずかしいと思わせる原因になっている。また，加納（1994）では，漢字圏学習者は字音語の読みが弱い，上級者になっても間違いが残る傾向が見られると指摘している。

本稿では，中国人学習者にとって，既知の中国語漢字の音韻・形態・意味の知識が，日本語漢字の音読みの習得にどのように影響を及ぼすのかを明らかにする。

1. 先行研究

・漢字の読みと音韻に関する先行研究

呉（1999）では，台湾人日本語中級学習者は，母語の中国語の音韻知識の影響を受け，発音の類似度が高い語のほうが聞き取りの成績がよいことを示している。

茅本（2000）では，日本語の上級学習者（学習歴2年～3年）は，日本語で漢字を読み上げるとき，母語の音韻情報に影響を受け，両言語の発音の似ている漢字を似ていない漢字より速く読み上げることが示している。

・漢字の形態に関する先行研究

武部（1989）によると，音符が同じグループの形声文字は，そのうちの一つが既習であれば，他

の漢字の字音を類推することが可能である。例外があるとしても、規則を利用することによって、漢字音の学習に役立つと指摘している。

中村（2009）によると、形声文字の知識は初級の早い段階からすでに活用されはじめている。「習熟度が上がるにつれ、形声文字の知識を利用する割合が高くなる。」と述べている。

・漢字と漢語の意味に関する先行研究

茅本（2002）は、心理学の視点から、中国人日本語学習者は、日本語の漢字を認識したり読んだりするときに、中国語の漢字の知識、特に意味知識を利用していることを指摘している。

2. 研究目的

本研究の目的は、以下の4点が、日本語の漢字の音読みの習得にどのような影響を及ぼすかを明らかにすることである。

- ① 中国語の同音漢字の知識
- ② 形声文字の形態の知識
- ③ 両言語音韻の類似の知識
- ④ 両言語意味の関連の知識

3. 仮説

研究目的に従い、4つの仮説を立てる。中国人日本語学習者は、中国語漢字の知識の影響を受けているため、

- ① 中国語の音韻が同じ2つの漢字は、日本語の音読みが同じ場合より、異なる場合のほうが間違いやすい。
- ② 同じ音符を持つ2つの形声文字は、日本語の音読みが同じ場合より、異なる場合のほうが間違いやすい。
- ③ 両言語の音韻が似ている漢字より、似ていない漢字の音読みが間違いやすい。
- ④ 日中同形同義語より、中国語に存在しない漢語の音読みが間違いやすい。

4. 研究方法

4.1 調査方法

4つの仮説を検証するために、教室に調査対象者全員を集め、辞書使用と他者との相談を禁止し、質問紙調査法を用い、10分程度の調査を行った。

4.2 調査時期と場所

2011年4月25, 26日に中国河北省の燕山大学で調査した。なお、大学には事前に許可を得ている。

4.3 調査対象

燕山大学日本語科二年生15名と三年生24名の計39名を対象とする。表1は調査対象のグループ分けである。

表1 調査対象のグループ分け

グループ分け	人数	日本語レベル	日本語学習暦
JFL1	16	N1合格	2.5年
JFL2	8	N1不合格	2.5年
JFL3	15	受けていない	1.5年

4.4 調査範囲

以下の参考資料に基づき、調査範囲の漢字を抽出した。

① 陳生保・胡国偉・陳華浩 (1986)『日語』(5), (6)

中国国内で使われている中上級日本語教科書である。「新しいことば」に出てくる音読みの二字漢字熟語を出題範囲とする。

② 国立国語研究所 (2006)「現代雑誌200万字言語調査語彙表」

漢字や漢語の使用頻度の資料である。選んだ理由としては、「雑誌コーパスに基づくため分野の偏りが少ないこと、無料でウェブ上に公開されており誰にでも入手できること、加工して公開する場合に著作権上の制限が少ないこと」(松下2009a)などが挙げられる。

③ 茅本 (1995)「同一漢字における中国語音と日本語の音読みの類似度に関する調査」

個々の漢字が持っている日本語の音読みと中国語音がどれくらい心理言語学的に似ているかということを数値として表す資料である。中国語母語話者11名を対象とし、7段階評定法で教育漢字996字の類似度を調査したものである。数値が高ければ高いほど、日本語と中国語の漢字の発音が似ているといえる。類似度の平均値は2.38である。

なお、以下の漢字は調査範囲外とした。

- ① 頻度が非常に低い熟語 (例：弱国, 辮髪)
- ② 変音現象が生じる熟語 (例：実績, 身辺)

- ③ 中国語の多音字（例：遂行, 単純）
- ④ 複数の音読みを持つ漢字で頻度が非常に低い音読み（例：弟子, 発作）

4.5 調査項目

4.5.1 中国語の音韻が同じ漢字の項目

仮説①「中国語の音韻が同じ2つの漢字は、日本語の音読みが同じ場合より、異なる場合のほうが間違いやすい。」を検証するために、中国語の音韻が同じ2つの漢字（網かけの漢字）には、音読みが同じグループをA1、異なるグループをA2とし、3問ずつ出題する。各問題には、下線付きの漢字の発音がほかの2つと異なるものを調査対象者に選択させる。予測としては、A1より、A2の問題の正答率が低い。

- | | | |
|---------------|---|--|
| A1
音読みが同じ | { | (1) 1. <u>至難</u> 2. <u>志向</u> 3. <u>祖父</u> |
| | | (2) 1. <u>興奮</u> 2. <u>憤慨</u> 3. <u>強風</u> |
| | | (3) 1. <u>応援</u> 2. <u>造園</u> 3. <u>永久</u> |
| A2
音読みが異なる | { | (4) 1. <u>貢献</u> 2. <u>限界</u> 3. <u>兼用</u> |
| | | (5) 1. <u>招待</u> 2. <u>代理</u> 3. <u>次第</u> |
| | | (6) 1. <u>野蛮</u> 2. <u>満開</u> 3. <u>定番</u> |

表2 A1の例

問題 (1)	<u>至難</u>	<u>志向</u>	<u>祖父</u>
中国語の音韻	zhi	zhi	zu
日本語の音読み	si	si	so

表3 A2の例

問題 (4)	<u>貢献</u>	<u>限界</u>	<u>兼用</u>
中国語の音韻	xian	xian	jian
日本語の音読み	ken	gen	ken

4.5.2 同じ音符を持つ形声文字の項目

仮説②「同じ音符を持つ2つの形声文字は、日本語の音読みが同じ場合より、異なる場合のほうが間違いやすい。」を検証するために、同じ音符を持つ2つの形声文字（網かけの漢字）には、音読みが同じグループをB1、異なるグループをB2とし、3問ずつ出題する。各問題には、下線付きの漢字の発音がほかの2つと異なるものを調査対象者に選択させる。予測としては、B1より、B2の問題の正答率が低い。

- | | | |
|---------------|---|--|
| B1
音読みが同じ | { | (1) 1. <u>歓声</u> 2. <u>勸業</u> 3. <u>念願</u> |
| | | (2) 1. <u>編集</u> 2. <u>偏見</u> 3. <u>弊社</u> |
| | | (3) 1. <u>拍手</u> 2. <u>停泊</u> 3. <u>配合</u> |
| B2
音読みが異なる | { | (4) 1. <u>釈放</u> 2. <u>翻譯</u> 3. <u>役人</u> |
| | | (5) 1. <u>反転</u> 2. <u>伝説</u> 3. <u>店頭</u> |
| | | (6) 1. <u>剝製</u> 2. <u>録音</u> 3. <u>希薄</u> |

表4 B1の例

問題 (1)	歓声	勧業	念願
音符	左に「 ㇿ 」	左に「 ㇿ 」	
音読み	kan	kan	gan

表5 B2の例

問題 (4)	釈放	翻訳	役人
音符	右に「 ㇿ 」	右に「 ㇿ 」	
音読み	syaku	yaku	yaku

4.5.3 両言語の音韻の類似の項目

仮説③「両言語の音韻が似ている漢字より、似ていない漢字の音読みが間違いやすい。」を検証するために、類似度が4点以上の熟語をC1、2点以下の熟語をC2とし、6語ずつ出題する。類似度の数値は4.4「調査範囲」の資料③「類似度に関する調査」のデータを参照する。各熟語の読み方を調査対象者に書かせる。予測としては、C1より、C2の問題の正答率が低い。

C1	}	代理	困難	優秀
類似度が4点以上		有利	医療	態度
C2	}	血圧	誤解	中央
類似度が2点以下		制作	清潔	牧場

表6 C1の例

熟語 (漢字)	代	理	困	難
中国語の音韻	dai	li	kun	nan
日本語の音読み	dai	ri	kon	nan
類似度	5.82	6.27	4.45	6.27

表7 C2の例

熟語 (漢字)	血	圧	誤	解
中国語の音韻	xue	ya	wu	jie
日本語の音読み	ketu	atu	go	kai
類似度	1.73	1.27	1.09	1.27

4.5.4 両言語の意味の関連の項目

仮説④「日中同形同義語より、中国語に存在しない漢語の音読みが間違いやすい。」を検証するために、日中同形同義語をD1、中国語に存在しない漢語（以下「非存在語」と省略する）をD2とし、6語ずつ出題する。各熟語の読み方を調査対象者に書かせる。予測としては、D1より、D2の問題の正答率が低い。

D1	}	失望	寿命	平凡
同形同義語		微笑	野生	抑制
D2	}	局所	克明	豪雪
非存在語		快晴	疎開	承知

表8 [D1]の例

日本語	失望	寿命
中国語	失望	寿命
種類	同形同義語	

表9 [D2]の例

日本語	局所	克明
中国語	—	—
種類	非存在語	

5. 調査結果

以下表10は調査の全体の結果である。

表10 全体の結果

グループ 項目	中国語の 同音漢字		形声文字 の形態		両言語音韻 の類似		両言語意味 の関連	
	A1	A2	B1	B2	C1	C2	D1	D2
全員 (39)	83.8%	47.9%	62.4%	59.8%	90.0%	74.6%	65.1%	58.8%
JFL1 (16)	93.8%	56.3%	77.1%	62.5%	95.3%	88.0%	85.0%	80.7%
JFL2 (8)	79.2%	37.5%	75.0%	66.7%	89.6%	81.3%	76.3%	68.8%
JFL3 (15)	75.6%	44.4%	40.0%	53.3%	84.4%	56.7%	38.0%	30.0%
	全部下がる		JFL3は上がる		全部下がる		全部下がる	

表10をみると、JFL3のB2がB1より高いことを除き、全てのグループにおいては、A1, B1, C1, D1それぞれの正答率が、A2, B2, C2, D2より高い。

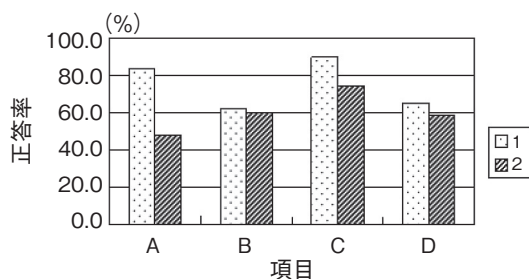


図1 各項目における全員の正答率

図1の全体の正答率をみると、予測と一致する。A1, B1, C1, D1それぞれの正答率が、A2, B2, C2, D2より高い。

各項目のグループ別の正答率を見ていく。

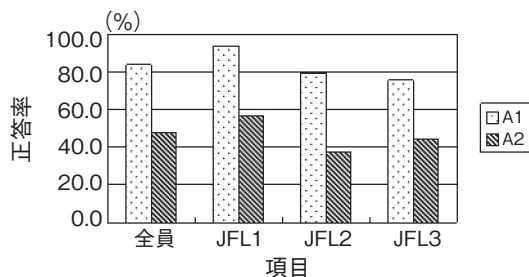


図2 項目Aの正答率

図2の中国語の同音漢字の項目では、JFL1、JFL2、JFL3において、A1の正答率がA2より高い。それぞれ37.5%、41.7%、31.2%の差がある。

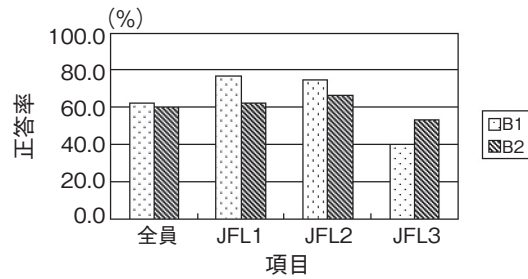


図3 項目Bの正答率

図3の形声文字の形態の項目では、JFL1とJFL2において、B1の正答率がB2より高い。JFL3は予測と逆で、B2の正答率がB1より高い。B1とB2の正答率を比べると、それぞれ14.6%、8.3%、13.3%の差がある。

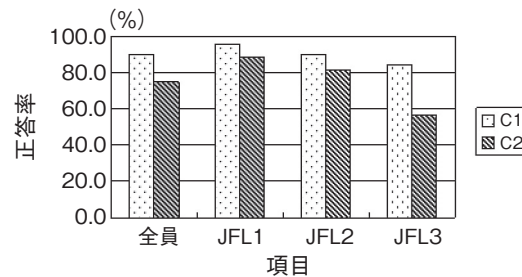


図4 項目Cの正答率

図4の両言語の音韻の類似の項目では、JFL1、JFL2、JFL3において、C1の正答率がC2より高い。それぞれ7.3%、8.3%、27.7%の差がある。

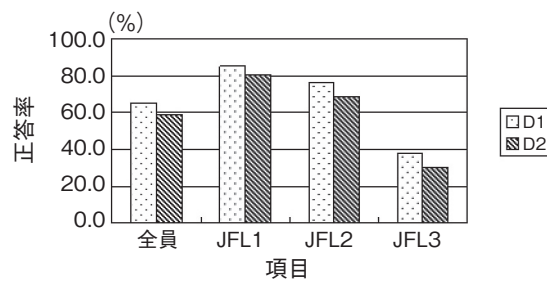


図5 項目Dの正答率

図5の両言語の意味の関連の項目では、JFL1、JFL2、JFL3において、D1の正答率がD2より高

い。それぞれ約4.3%, 7.5%, 8%の差がある。

6. 分析と考察

6.1 正答率からみる音読みの習得

全体の結果をみると、A1, B1, C1, D1それぞれの正答率より、A2, B2, C2, D2のほうが低い。予測と一致する。

中国語の同音漢字の項目では、各グループにおいて、A1の正答率がA2より高いことから、中国語の発音が同じであれば、日本語の音読みも同じだろうと学習者は考える傾向があると考えられる。つまり、中国語の同音漢字の知識が、音読みの習得に影響を及ぼすことを示している。

形声文字の形態の項目では、全体的にB1の正答率がB2より高いが、JFL3において、B2の正答率が高い。今回の調査では、母語の影響がはっきりしていないが、日本語学習歴とレベルからみると、中村(2009)の「習熟度が上がるにつれ、形声文字の知識を利用する割合が高くなる」という結論と一致する。

両言語の音韻の類似の項目では、C1の正答率がC2より高いが、JFL1とJFL2において、C1とC2の差が10%に及ばない。全体的に類似度が高ければ正答率が高いので、音韻の類似の影響があると考えられる。呉(1999)の聞き取り調査、茅本(2000)の読み上げ調査の結果と一致し、読み方を書くときも音韻の類似の影響が見られる。

両言語の意味の関連性の項目では、D1の正答率がD2より高いが、他の項目に比べると、差が大きい。今回の調査では、同形同義語の音読みが、非存在語より習得しやすい傾向があると考えられるが、松下・Taft・玉岡(2004)では、「存在語であることが、語によっては、中国語母語学習者の有利に働くことは示唆されるが、それは決定的な要素ではない。」と述べている。

6.2 誤用からみる音読みの習得

誤用の例として、複数挙げられるが、「豪雪」を「ごうう」と書くのは、漢字の読み方より、字面から意味の知識が先に働くと考えられる。また、「承知」を「りょうしょう」、「ぞんじ」などと書く例がある。それは、「承知」の言葉を見ると、「理解する」という意味の知識が先に連想され、類義の「了承」、「存知」の読み方を書いてしまうと考えられる。清水(1993)では、「漢字圏学習者には、「形」「義」の結びつけは比較的容易にできるが、それに比べ「音」と「形」や「音」と「義」との結びつけは難しい。」と述べている。

中国語の発音と関わる誤用例として、「抑制」を「いせい」(「抑」は中国語で「yi」)、「克明」を「こめい」「かめい」(「克」は中国語で「ke」)と書くことがある。これは、中国語の発音に近い音を探そうとする(汪2009)ものである。

「態度」を「だいで」「たいと」、「局所」を「きょくじょ」と書く音の清濁の誤用、「牧場」を「ぼくじょ」、「優秀」を「ゆしゅう」「ゆうしゅ」と書く音の長短の誤用、「疎開」を「そっかい」、「清

潔」を「せっけつ」と書く促音の誤用などが挙げられる。加納（1994）で述べているように、字音語の読み（特に音の長短、清濁、促音、撥音など）は漢字圏の学習者の特徴と言える習得難のものであることは、以上の誤用と一致する。

7. まとめと今後の予定

本稿では、中国人日本語学習者を対象とし、母語の音韻・形態・意味の知識が漢字の音読みの習得にどのように影響を与えるのかを考察した。

中国語の同音漢字の知識の影響が見られた。形声文字の知識や、両言語音韻の類似、意味の関連の知識については、母語の影響がある傾向はいえるが、はっきりしていなかった。

今回の調査対象者は限られていたため、結果は一般化して言うことができない。これから、中国人学習者のみならず、ほかの母語学習者と比較して調査を行い、さらに中国語の知識が日本語の漢字の音読みの習得に与える影響を探る。日本語教育の分野で、中国人日本語学習者のための漢字指導法の役に立てていきたい。

〈注〉

- (1) 曾根（1988）は中国語上位6112語中、56%を同形語と認定。高野・王（2002）は中国語上位3000語中33%、日本語上位3000語中41%を同形語と認定。松下（2009b）によると、日中同形漢語は漢語の8~9割を占める。
- (2) 松下・Taft・玉岡（2004）では、「文化庁（1978）では3分の2を類義としているが、実際には厳密に一致するものは少なく、基本義の一致に限って半分程度と考えるのが妥当であろう。」と述べている。

引用文献・参考文献

- 清水百合（1993）「初級漢字クラスの問題点—漢字圏学習者を中心に—」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』（8），pp.39-48，筑波大学留学生教育センター。
- 中村かおり（2009）「中国語を母語とする学習者の漢字の読みにおける課題」『拓殖大学日本語紀要』（19），pp.41-53，拓殖大学国際部。
- 松下達彦・Marcus Taft・玉岡賀津雄（2004）「中国語単語を知っていることは日本語漢字語の発音学習に役立つか？」『中国学・日本語学論文集：平井勝利教授退官記念』，pp.578-590，白帝社。
- 汪昕紅（2009）「日本語の漢字の読みの習得に関する一考察—中国語話者の学習者を対象に—」『日本教育心理学会総会発表論文集』（51），p.578，日本教育心理学会。
- 加納千恵子（1994）「漢字教育のためのシラバス案」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』（9），pp.41-50，筑波大学留学生教育センター。
- 茅本百合子（1995）「同一漢字における中国語音と日本語の音読みの類似度に関する調査」『広島大学日本語教育学科紀要』（5），pp.67-75，広島大学。
- 茅本百合子（2000）「日本語を学習する中国語母語話者の漢字の認知—上級者・超上級者の心内辞書における音韻情報処理—」『教育心理学研究』48（3），pp.315-322，日本教育心理学会。
- 茅本百合子（2002）「語彙判断課題と命名課題における中国語母語話者の日本語漢字アクセス」『教育心理学研究』50（4），pp.436-445，日本教育心理学会。

- 国立国語研究所 (2006)「現代雑誌 200 万字言語調査語彙表」<http://www.ninjal.ac.jp/products-k/katsudo/seika/goityosa/> (2011 年 4 月 17 日)
- 呉佳穎 (1999)「台湾人日本語学習者の聴解力に関する研究—漢語と和語の聞き取りを中心に—」(広島大学教育学研究科修士論文)
- 鈴木義昭 (1987)「漢字教育の問題点—中・上級漢字系学生の場合—」『講座日本語教育』(23), pp.76-87, 早稲田日本語教育研究センター
- 曾根博隆 (1988)「日中同形語に関する基礎的考察」『明治学院論叢』424, pp.61-96, 明治学院大学.
- 高野繁男・王宝平 (2002)「日中現代漢語の層別—日中同形語に見る—」『日中文化論集』, pp.118-139, 勁草書房.
- 武部良明 (1989)『漢字の教え方—日本語を学ぶ非漢字系外国人のために—』アルク
- 陳生保・胡国偉・陳華浩 (1986)『日語』5, 6, 上海外語教育出版社
- 文化庁 (1978)『中国語と対応する漢語』大蔵省印刷局
- 松下達彦 (2009a)「マクロに見た常用漢字語の日中対照研究：データベース開発の過程から」『桜美林言語教育論叢』5, pp.117-131, 桜美林大学.
- 松下達彦 (2009b)「マクロに見た常用漢字語の日中対照：頻度・形態・意味の一致とずれの分布」2009 年 日本語教育国際研究大会, ニューサウスウェールズ大学, 配布資料.